

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回入間市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和4年6月22日(水) 午前10時00分 開会 午前11時45分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 C棟5階 501会議室
議 長 氏 名	池田 拓
出席委員(者)氏名	野口泰子、逢坂信弥、横田修、 及川由科、宮岡幸江、千葉弘明、 池田拓、磯田英穂、島田可南子、高垣夕紀
欠席委員(者)氏名	手塚久晴、苔縄雅恵、大森洋司、米山みどり、桂川泰典
説明者の職氏名	こども支援課主査 橘内明子、青少年課長 中林健
会 議 次 第	1 開会 2 会長あいさつ 3 部長あいさつ 4 委嘱状交付 5 議題 (1) 子ども・若者未来応援プラン中間見直しについて (2) 青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて (3) その他
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	資料2-1 入間市子ども・若者未来応援プランの中間年見直しについて 資料2-2 入間市青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて 別紙 ファミリーバーベキュー
事務局職員職氏名	【こども支援部】 部長 齋藤忠士、次長兼こども政策室長 守屋俊久 【こども支援課】 課長 木下義幸 主幹 根本章 主査 橘内明子、主事補 柳大悟 会計年度任用職員 清水律子 【保育幼稚園課】 課長 近藤功 副参事 園田智慈 【青少年課】 課長 中林健
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

- 1 下記の議題について事務局が説明し、審議を行った。
委員からの質疑については、事務局が回答した。

議 題

- (1) 子ども・若者未来応援プラン中間見直しについて
- (2) 青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて
- (3) その他

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
池田会長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p>今回の会議録署名人は宮岡委員にお願いします。</p> <p>(1) 子ども・若者未来応援プラン中間年見直しについて</p>
池田会長	<p>「子ども・若者未来応援プラン中間年見直しについて」を議題とする。事務局から説明願う。</p>
こども支援課主査	<p>「子ども・若者未来応援プラン中間年見直しについて」、資料に沿って説明する。</p> <p>(資料2-1に基づいて説明)</p> <p>事前に質問をいただいているが、各事業に関する質問は、今後の庁内の入間市子ども・若者未来応援プラン策定委員会(以下「策定委員会」という。)や、令和3年度事業の点検・評価の際に取り上げる。宮岡委員から「所管と出所の見分け方はどのようになっているのでしょうか。同じ事業番号であるが、所管課と出所をどのように理解すればいいのでしょうか。」という質問について回答する。所管課は事業の取り組んでいる部署であり、出所は事業の効果をはかる所定の数値を把握している部署である。今後、見直しを検討する。</p>
池田会長	<p>中間年見直しの方向性について、質問や意見等はあるか。</p>
千葉委員	<p>今回の見直しでは、新型コロナウイルス感染症対策の視点もあると思うが、どのような基準で社会環境の変化を考慮していくのか。</p>
こども支援部次長兼こども政策室長	<p>まずは各課から事業の状況を確認し、精査して、策定委員会でコロナ禍によりどのように変化したかを見ていく。そして、国の方針を踏まえて今後の方向性や方針を子ども・若者未来応援プランに反映させていきたい。</p>
千葉委員	<p>計画を作る際にはパブリックコメント等も検討していただきたい。</p>
池田会長	<p>他には意見がないようなので、議題(1)「入間市子ども・若者未来応援プラン中間年見直しについて」は以上とする。</p> <p>(2) 青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて</p>
池田会長	<p>続いて、議題(2)「青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて」事務局から、説明をお願いします。</p>

発 言 者	発 言 内 容
青少年課長	<p>「青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて」、資料に沿って説明する。 (資料2-2に基づいて説明)</p>
池田会長	<p>ただいまの事務局の説明を踏まえ、質問等はあるか。</p>
野口委員	<p>青少年活動センターでバーベキューができることを初めて知った。彩の森入間公園でもバーベキューができるが、市と関係があるか。</p>
青少年課長	<p>青少年活動センターのバーベキューと彩の森入間公園でのバーベキューは、異なるものである。</p>
逢坂委員	<p>「入間市子ども・若者未来応援プラン中間年見直しについて」、子育てしやすいまちとしてPRされている流山市等、他市を参考に、住民のニーズに合うような中間見直しを行ってほしい。 「青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて」、ニーズを把握した上で、ボランティアの協力を得ながら、青少年にとって魅力的な居場所を作ってほしい。時代に応じたニーズに柔軟に対応して、子育てしやすい魅力のある、まちづくりに皆で励んでいきたい。</p>
横田委員	<p>コロナ禍で中止となったが、子どもたちだけでなく家族にも人気があるイベントがたくさんあった。常設とまでは望まないが、定期的にイベントを実施すると良い。 利用拡大に向けては、ターゲットの選択が重要である。例えば、子どもたちであるなら、昆虫採集等豊かな自然のある施設の特性を生かした企画が良い。中高校生であるなら、部活動等で利用できるものが良い。</p>
及川委員	<p>ファミリーバーベキューの利用状況について、13件という申請数は目標値に近いのか。現時点で利用件数が目標値よりも多いならば、この取り組みを継続していくと賑わっていくであろう。もし目標値よりも低いならば、取り組み内容をもう少し改善する必要がある。 利用情報の取得について、若い世代や子育て世代だと、インターネットで空き情報や使い方を見ることが多いと思われるので、インターネットを活用できれば良い。</p>
青少年課長	<p>対象者については、市民限定ではないので、市外の方の利用がなかったことを踏まえると、利用件数は少なかったと考えている。SNSを含めて、周知方法を検討していく必要があると感じている。</p>
宮岡委員	<p>本施設は、青少年育成に特化した施設である。本施設のさらなる活用と利用者の拡大を考えると、青少年が学校に行っている平日の日中の活用方法が</p>

発 言 者	発 言 内 容
青少年課長	<p>課題であろう。平日の日中においては、学校に行けない子どもたちの居場所を作ることも考えられるが、どのように考えているのか。</p> <p>行政が所管する宿泊施設は県内でも珍しいが、本施設を宿泊施設として、どのように活用していくのか。</p> <p>バーベキュー以外に新しい取り組みは計画しているか。</p> <p>宿泊については、コロナ禍のため、制限をしながら実施している。新たな事業については検討しているところである。平日の利用が少ない状況なので、各委員の意見を踏まえて、検討していきたい。</p>
池田会長	<p>不登校の子どもたちの活動はありますかと質問があったが、いかがか。</p>
青少年課長	<p>青少年活動センターでは把握していると思われる。</p>
宮岡委員	<p>青少年は夜間の利用が可能である。夜間は夜間留守番対応の方がいるが、指導者のような立場の方はいない。本当に夜間に利用させたいならば、人員配置を考えていく必要がある。青少年が活動する時間に夜間留守番対応の方だけがいる状況はあまり良くない。今後の運営方法について教えてほしい。</p>
青少年課長	<p>夜間の人員配置について、今のところ、変更はない。今後、利用者拡大を考える中で、意見を参考にしたい。</p>
千葉委員	<p>対象が青少年を含む家族及びグループと限定されているので、利用が少ないことは理解できる。窓口での申し込みや電話での空き状況の確認は今の時代には合わない。今後はSNSの活用が必須になってくるであろう。バーベキューだけではなく、本施設の良さを活かしながら、利用しやすい環境を整備することも課題であろう。</p>
磯田委員	<p>コロナ禍になる前までは、よく利用していた。実際に利用すると魅力を感じられる施設である。最近改修された、近隣市の施設は交通機関が利用しやすく、施設設備も整っている。そのような施設と比べると、子どもたちだけで青少年活動センターを利用することは難しい。その不便さを逆手に取った戦略にする必要がある。</p> <p>学校に行かないと選択した子どもたちの居場所について、市民から問い合わせがあった場合に、市として対応することができるか。</p>
青少年課長	<p>青少年活動センターの利用形態については、個人利用の拡大も検討しているが、学校や登録団体の利用が基本である。不登校の子どもの居場所については、学校と（教育委員会）の連携や調整が必要になる。</p>
こども支援部次	<p>補足させていただきたい。本施設は、元々、県の教育委員会が所管してい</p>

発 言 者	発 言 内 容
長兼こども政策 室長	<p>たので、教育的な側面が強い施設であった。市が所管するようになってからも青少年健全育成を目的とした団体の利用が中心であった。コロナ禍や社会状況の変化により、団体活動が難しい状況ではあるが、いるまドックでの意見を踏まえて、利用者を増加させるために新たな事業に取り組んでいるところである。</p> <p>学校に行けない子どもを対象に活動する団体も本施設を利用している。また、当該の団体も含めて、市内の子どもの居場所の運営団体の情報交換会を行い、連携も深めている。</p>
島田委員	<p>私も本施設を利用するが、窓口での申し込みや宿泊の際の手続きが大変だった。また、夜間に利用するときには職員の方も一緒に子どもを見守ってもらえると安心して利用できる。</p> <p>ファミリーバーベキューに関して、中学生にもなると子どもだけで出かけることも多いので、中学生からは子どもだけでも利用できるように検討しても良い。</p> <p>入間市以外にもダイアプランに属する市の団体は利用できるか。</p>
青少年課長	<p>利用できる。</p>
高垣副会長	<p>子どもの頃に利用したことがあるが、親として利用した時に施設に対して古い印象を持った。立地条件や申し込み方法を踏まえると、なかなか利用しづらい。インターネットでの予約や申し込みの窓口を増やすこと等、解決策があれば良い。</p>
池田会長	<p>児童福祉法が改正されることで、これから子どもの意見表明権というのが話題になってくる。大人だけで子どもの施設を考えるのではなく、子どもたちの意見を聞く必要がある。アンケートやオンライン会議等、様々な方法があるので、子どもの意見を聞く機会を設けていただきたい。本市の姉妹都市であるヴォルフラーツハウゼン市の青少年活動の場等を参考にしながら、子どもたちの意見を取り込むことで、本施設を子どもたち・若者たちに愛される施設にしていきたい。</p> <p>他には意見がないようなので、議題（２）「青少年活動センターの利用者拡大に向けた取り組みについて」は以上とする。</p> <p>（３）その他</p>
池田会長	<p>続いて、議題の（３）「その他」について、事務局から説明願う。</p> <p>（特になし）</p>
高垣副会長	<p>以上で、閉会とする。</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 4 年 7 月 26 日

議 長 の 署 名

池 田 拓

議長が指名した者の署名

宮 岡 幸 江